

第9回厚生労働省ICFシンポジウム



ICFコードを活用した 精神科作業療法計画の実践

著者名：河埜康二郎，田村大，遠藤千冬，三上直剛，村井千賀，
鈴木孝治，小林正義，東登志夫，三澤一登，宮口英樹

目的と方法

- 精神科作業療法計画の標準化を図ることを目的に、ICFコードを活用した精神科作業療法計画により精神科作業療法の実施状況を探査的に調査した。
- 全国15医療機関に協力を要請し、2020年9月から12月までに精神科病棟に入院した患者36名を対象とした。
- ICFコードを活用した精神科作業療法計画の内容（入院初回時のもの）について調査した。
- ICFコードの用いられ方の傾向を検討するために、ICFコードの出現回数の算出とword法による階層的クラスタ分析を行った。
- 階層的クラスタ分析後、最小出現回数を3に設定したデンドログラムを作成した。
- 解析にはKH Coderを用いた。



結果

表1. 患者との合意内容

内容	人数 (人)
生活及び生活全般 (ADL/IADL) に関すること	14
趣味や余暇活動に関すること	7
服薬や疾患など健康に関すること	7
家族関係を含め、対人関係に関すること	4
仕事に関すること	3
その他	1

表2. 障害 (弱み) とアセスメントした項目

コード	回数 (回)
d240 ストレスとその他の心理的要求への対処	19
b1300 活力と欲動の機能 活力レベル	9
b1263 気質と人格の機能 精神的安定性	8
b1304 活力と欲動の機能 衝動の抑制	6
b1602 思考機能 思考の内容	6

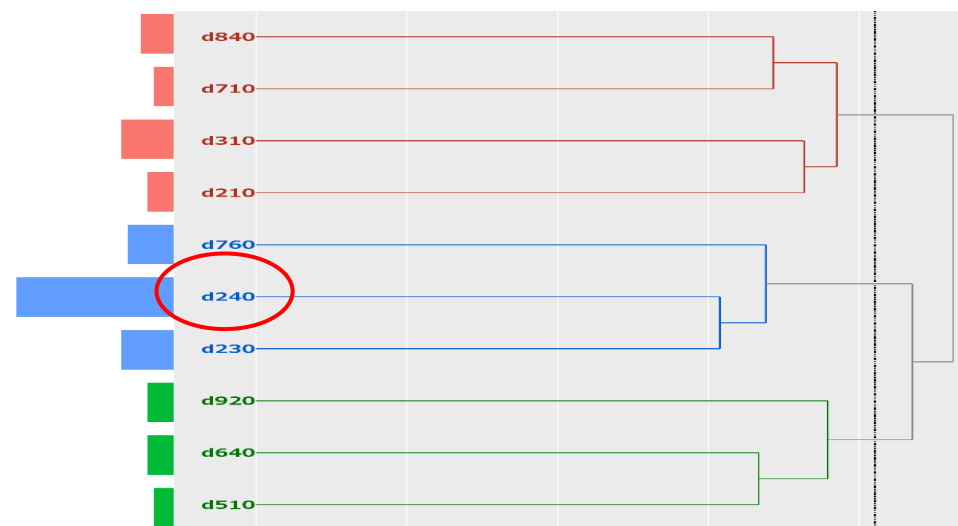


図1. 焦点化したADL/IADLの支援課題



図2. 実施したプログラム内容



結果

表1. 患者との合意内容

内容	人数 (人)
生活及び生活全般 (ADL/IADL) に関すること	14
趣味や余暇活動に関すること	7
服薬や疾患など健康に関すること	7
家族関係を含め、対人関係に関すること	4
仕事に関すること	3
その他	1

①患者との合意内容
「ADL/IADL」



表2. 障害 (弱み) とアセスメントした項目

コード	項目	回数
d240	ストレスとその他の心理的・感情的要求への対処	19
b1300	活力と欲動の機能	9
b1263	気質と人格の機能	8
b1304	活力と欲動の機能	6
b1602	思考機能	6

②アセスメント内容
「ストレス等の対処」

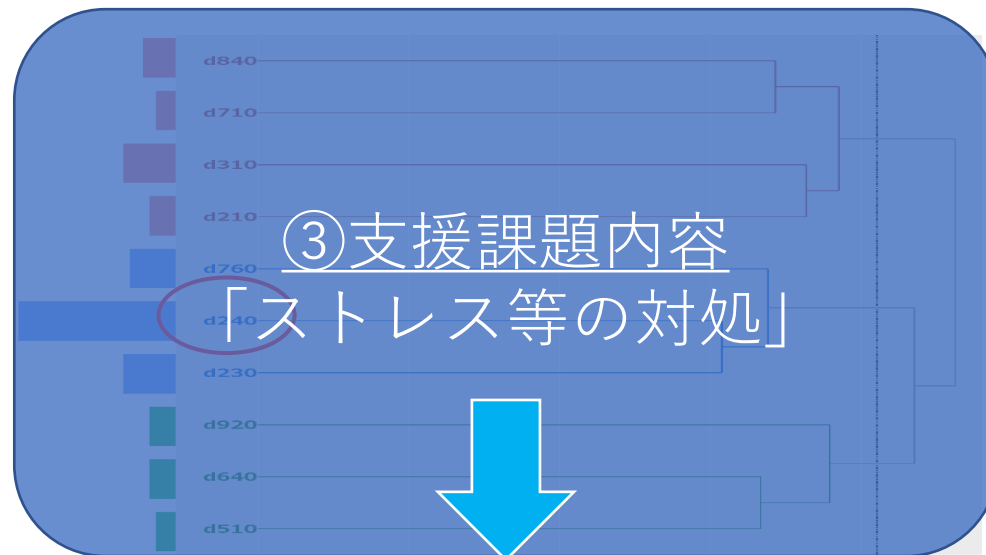


図1. 焦点化したADL/IADLの支援課題

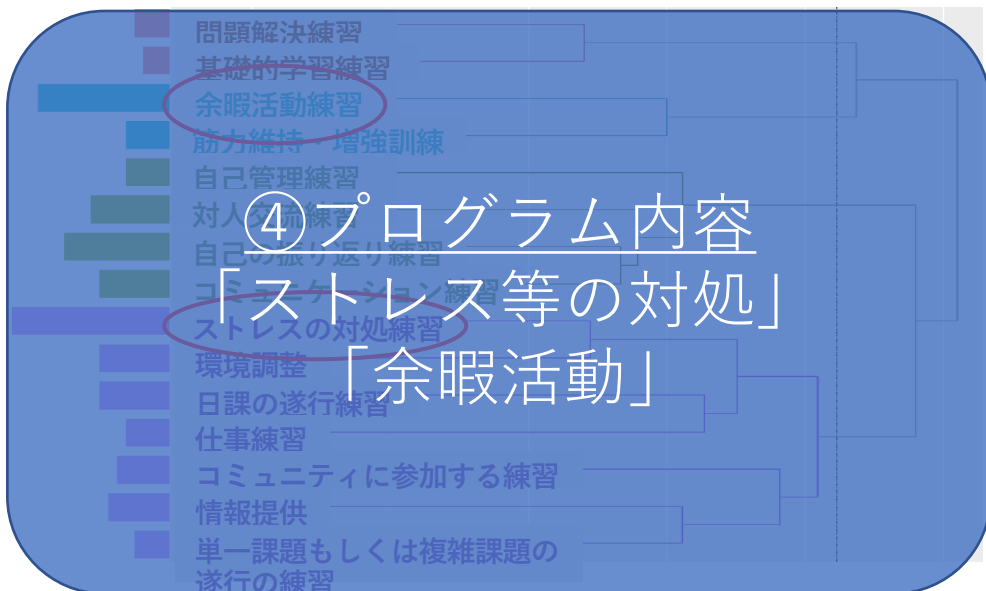


図2. 実施したプログラム内容



考察とまとめ

1. 「生活及び生活全般（ADL/IADL）に関すること」
精神科作業療法で合意されやすい傾向
⇒精神科作業療法は生活行為に関するリハビリテーション
2. ICFコード「d240 ストレスとその他の心理的要求への対処」
アセスメント，焦点化，プログラムでコードを多用される傾向
⇒ストレス対処は入院中の精神科作業療法で扱われやすい
支援対象事項
3. ICFコードの活用は精神科作業療法計画の質の管理ができる可能性
4. 事例の蓄積とデータ解析，標準化が課題

